



社会医療法人
同仁会
Dojinkai
Social Medical Corporation

私たちの理念「一視同仁」

同仁会報みみはら

2024年9月1日発行

第142号



発行 社会医療法人同仁会 同仁会報編集委員会 〒590-0821 堺市堺区大仙西町6丁184-2
TEL 072(244)7260 FAX 072(247)0165 URL <https://www.mimihara.or.jp> (同仁会HP)



学び多い3日間

原水爆禁止世界大会in広島

被爆79年目の夏 次世代へ思いを継承



被爆79年目の夏を迎えました。被爆者の平均年齢は85歳を超え、あと数年のうちに直接、被爆者の体験を聞くことができなくなります。そんな危機感と次世代へ思いを継承することも含め、みみはらグループから26人が、原水爆禁止世界大会・広島大会に参加しました。

開会総会は、現地・オンラインを含め、400人以上が参加し、海外代表より連帯のあいさつと世界各国の核廃絶の取り組みが報告されました。また沖縄の参加者から「沖縄の負担軽減と野古埋め立て強行。戦後79年たっても銃剣とブルドーザーで県民を苦しめている。いつ沖縄の戦後が終わるのか」と報告。



職場・個人からのメッセージをかかげてアピール



東京から参加の若い母親は、「義祖父から戦争体験を聞いた。自分も何か行動をと思い、SNSで発信し始めた」と話し、原爆体験談を取り寄せたり、現地で感じた思いを発信し、多くの若い世代の共感を広げていました。

2日目は、各分科会に分かれての参加でした。分科会「映像のひろば」では、広島市が1990年に制作した「ははたちの祈り」が上映されました。



折鶴を奉納する職員（研修医）

た。このフィルムは戦後10年にわたり、アメリカが原爆被害を公表されないよう、撮影フィルムをすべて没収していたものです。しかし当時の映像関係者は、危険を承知で、被爆の実相を後世に伝えたいという思いから、一部フィルムを隠して、公表できる日を待っていました。そこには、絶望のまなざしの中、治療を受ける人々のようなすがすがし出されてきました。それでも参加者から「戦争体験者の父は、『映画のような生易しいものではない』と言っていた」と発言がありました。

最終日の朝、「原爆の子の像」で、老健みはらの利用者さんに折っていたいただいた折鶴を平和の願いを込めて、全員で奉納しました。

(次号へ続く)

(耳原代表団
事務局長 横山 健)